

日刊 磐城時報

編輯部 石城町新屋町十四
印刷部 石城町新屋町十四
電話 磐城時報社
廣告部 石城町新屋町十四
電話 磐城時報社
電話 磐城時報社

比佐組合長の満期を機に 理髪組合紛擾解決

各部代表者が集まり 更生組合の規約を協議

平警察署管内理髪業組合は組合の規定改正の件について打合せ長比佐信太郎氏の越権横暴に起因して、改正規約の要項は大体左

に努力したが遂に及ばず、小田部新平署長も就任以来圓滿解決に意を注ぎ去る十七日管内各部の幹部約五十名を平警察署に集

め懇談会を開いたが、既に比佐組合長改選期が来る折でもあり互に反目してゐた組合員は

従來の行がりを一切忘れて手打ちするに至つたので二十一日

午前十時から各部代表者二名宛合〇十五名が平署に集合来る二

月十一日開議する總會に提案す

▲料金の確立
▲場所によつて料金の高低あるは止むを得ぬものとして制度を確定する

▲常設委員を設置
各部に常設委員を置いてその方の紛擾解決の任に當らしめる

▲婦人部に特別規定を設け
組合費(部費)の例外規定、貧困組合員に對しては救済の意を以て組合費を軽減する

▲規約改正
組合員外の組合長を認める事とする、之は平署長を組合長とする希望によるものである

▲注意事項
一、竹林保護に關する件
一、林野火災信號の件
一、植林奨励の件
▲表彰組合及び組合員
▲組合
▲指示事項
一、林野火災防の件

▲指示事項
一、林野火災防の件

貧困者八十戸に 救済交附金を分配

平町共済助成會では二十日午後七時から平町役場で評議員會を開き

七時から平町役場で評議員會を開き、貧困者救済の目的で集まつた寄附金の處分方法について協議したが、明二十二日調査した貧困者八十戸、この家族

三百二十三名に一月平均一圓七十八錢宛合計百四十三圓十錢を分配する事になった。

▲横川内倉 田久小次郎、國井能男
▲上小川 白井清治、柳内松良
▲下小川 大森又三郎、草野一男、佐藤幸夫、吉田爲男、松本豊
▲鹿島 鈴木文雄、箱崎憲一、小野久枝、小松源一、四家義
▲夏井 岩松時夫、鈴木國保、山崎喜八郎、矢吹幸輔、渡邊秀保、宿屋延壽
▲飯野村 塩波與四郎、遠藤喜一、佐藤泉一、山野邊定之助
▲鈴木喜吉、山崎雄太郎、須藤榮三郎、宇佐美直保、鈴木利三
▲鈴木義保、鈴木兼太郎、佐川道太郎、木村徳次郎、佐藤重男、鈴木義久
▲平澤 吉田佐一、立澤和義、坂本政喜、小野廣市、松本嘉久、林末代司、金成雅義

退職した鈴木町長を 全国町村長會で表彰

小名濱町長鈴木榮氏は七十八歳の高齡を以て退職した事既に報の如くであるが、鈴木氏は勤

報二十年に達するので全国町村長會から表彰される事になった

鈴木榮氏は明治十九年小名濱外十四ヶ村戸長制が實施された際御用役となり明治三十六年助役、大正十二年町長に就任し爾來五期二十年町政のため盡力し殊に築港問題、平小

組始對第二組員との間に數回に生某(十二)同二年生某(九)(名

平町の火防組合 合同して聯合會組織

組合長は多田井笑次郎氏

平町の火防組合は従來各町毎に互の聲明書戰を展回し一般の輿論に統制がなされてゐなかつた味を呼んだが、問題はその後消防組顧問小名濱町長鈴木榮、モホールに聯合協議會を開き現町長小野晋平氏等が仲裁に入見の交換を行つた結果合同して七年秋季檢閲終了と同時に小

平火防組合聯合會を組織する事となり役員を左の如く決定した

▲組合長 多田井笑次郎 ▲副組合長 長成泉一郎、後藤桂仙

▲理事 磯貝豊 ▲顧問 小田部秀雄、井上茂作、青沼録太郎、三森寅雄

▲健康保健 議員選舉 石城郡好間村古河炭礦健康保險組合では二十二日六名の議員の改選を行ふが、競争相當猛烈であつた。

▲教務主任會 石城郡第三方面教務主任會は二十四日午前十時から平第一小學校に開

▲水害豫防 議員改選 平町外二ヶ村新川水害豫防組合議員改選は來月五日午前九時から平町役場會議室に執行する

定員十二名で有権者数は平町二百五十一、内郷村百八十六、飯野村百二十四計五百六十二名ありした田園風景である。平町各商店では舊年未大賣出しから二日の賣初め等の準備に大

童であるが、これに反して同町にある大小四十軒のカフェー、百余軒の飲食店、料理屋では、二三日は完全に茶引きの慘めさである。平町の小荷物係りは東京方面へ主として故郷を離れてゐる子弟その他の者への餅の贈り物。

▲再び採める 小名濱消防組頭小濱長太郎氏不併働してゐる二名の少年の舉動が不審なので平署員が取調べた

二部員に依つて擧げられて以來、内郷村内町第二小學校四年

生某(十二)同二年生某(九)(名

盗み廻る 二十日午後八時頃平署待合室を徘徊してゐる二名の少年の舉動が不審なので平署員が取調べた

二部員に依つて擧げられて以來、内郷村内町第二小學校四年生某(十二)同二年生某(九)(名

精神に異状を呈し 星山文治無賃乗車

平町田町星山文治七二男星山文治を秘す)と言ひ數日前家出し平町各商店から菓子その他を盗み廻つてゐたものと判明二十一日京せんとしたのを檢札の際車掌が發見茨城縣取手驛に下車せしめたが、同人は腦を病み精神に異状を呈してゐるもの、如く保護者は身柄引取のため取手驛に向つた。

平地方の 舊歲末情景

泣いても笑つても餘すところあつた。五日目は舊正月元日となる、平町を中心に附近各農村では今以て陰曆のお正月、目下舊年未で多忙を極めてゐるが、不景氣の聲は全部を覆へつてゐる。インフレーションだなんてもの、お陰は少しもないと大こぼしてゐるが縁起をかつく農村の人は「赤字を申歳、景氣を西歳」と意氣揚々としてゐるもの、のんびりした田園風景である。平町各商店では舊年未大賣出しから二日の賣初め等の準備に大童であるが、これに反して同町にある大小四十軒のカフェー、百余軒の飲食店、料理屋では、二三日は完全に茶引きの慘めさである。平町の小荷物係りは東京方面へ主として故郷を離れてゐる子弟その他の者への餅の贈り物。

嚴冬の征服者
福祿ストーブ
戸毎に福祿



四海は常春
電話三七番へ
カタロク御申越下さい
早速持参致します

福祿ストーブ
福島縣一手販賣
平停車場前
阿部石炭店

吸入用酸素
度99%

度量衡
モノサシ
マス
ハカリ
体温器
寒暖計

秤ノ取緒・錘糸・修覆致シマス

關内藥局
電話四〇番

外科 一般外科 内臓外科
性病科 X光線科

入院隨意(自炊の便あり)
元赤心堂病院跡
安齊科醫院
電話四七五

廣告

新任外科部長
內科學士來任

七月十一日ヨリ毎日診療ニ従事ス

內臟外科 醫學士 内木宗八
泌尿器科

平町新川町十九番地

外産婦人科 木村病院
電話一六四番

和洋銅鐵金物問屋

釜屋商店
諸橋久太郎
電話九九番

家傳秘法腫物湯
のんで効く
はれ物の妙薬

主一●面癩●よう乳の腫れ●指のはれ●林巴腺の腫れ
効一●耳鼻のおでき●骨膜炎●筋炎●はれ物手術の前後
効一●等よし

●特にかほのおでき、乳のはれは切らずに治り腫れ
痕を残さず美容上最適の治療劑なり

定價 五十錢 七十錢 一圓十錢 一圓五十錢
特約店
平町四丁目 小野藥店 四ツ倉町 荒川藥店
植田町 松本藥店 富岡町 莊野藥店
湯本町 岩瀬屋藥店
腫物湯 製劑所 茨城縣下孫 磯野 健生堂

吉田眼科病院
平町紺屋町 電話六八番

平町紺屋町 電話六八番

心安積蓄 利低通融
無事無事
許免臣大祿大
社會盡無用信本湯
番七四話電

專科
淋病 婦人病
皮膚病 専門
腸胃科
十二指腸病
腸胃病 胃性病
松村科醫院
【番七〇一話電】町南町平

大藏省允許
無事無事
共同共栄
電話電室

世界の名湯國立療養所の所在地
別府の天然家庭温泉
命の洗濯

一、温まる事は天然温泉と變りありません
一、萬病に靈驗的効果のある天下の別府温泉を日常家庭で
湯治の出来る重寶な家庭温泉
一、従来の溶劑を斷然優越せる新發見劑
一、石鹼の使用は出来る、白粉の伸を良くす、皮膚を美化
する理想的溶劑

疲勞回復 健康増進の鍵
病魔征服 傳染病豫防の武器

眞の温泉療法は一若葉の三四月から一夏に於て最有効な時
期です、是非御試用願ひます。

六回分(二日使用 十二日分) 五十錢
十四回分(同 廿八日分) 一圓
三十四回分(同 二ヶ月八日分) 二圓

平町四丁目
命の洗濯代理店 小野屋藥舖
電話一四四番

耳鼻咽喉科専門

平町田町七十番地

山内醫院

入院隨意 醫學士 山内亨吉
病室完備 電話六九一番

科專
X光線科
上田外科醫院
電話一二九番
入院院應